

日本科学教育学会創立 50 周年記念連続オンラインシンポジウム 「これからの 50 年の“科学技術人材育成”のあり方を探る」

科学技術が社会のあり方を根底から変えつつある現代。

これからの 50 年を見据え、科学教育が社会に対して果たすべき重要な使命は「科学技術人材の育成」です。

この本質的な課題に皆様と共に挑むべく、設立 50 周年記念事業として 3 回にわたる連続シンポジウムを企画いたしました。

第 1 回 日本科学教育学会創立 50 周年記念連続オンラインシンポジウム

クリスマスレクチャー － 科学技術人材育成のための高等科学教育 －

開催形式：オンライン (Zoom)

対象：どなたでも (非学会員でもご参加いただけます)

定員：250 名 (参加費無料・先着順)

主催：一般社団法人日本科学教育学会

★ PROGRAM ★

10:00-10:05 趣旨説明

10:05-10:35



安藤 晃

東北大学高等大学院機構特任教授、副理事 (教育企画担当)

「科学技術人材育成にむけた大学／大学院
での教育活動～東北大学の事例から～」

10:35-11:05



大島 まり

東京大学大学院情報学環・東京大学生産技術研究所教授

「拡がるエンジニアリングのすその、
多様化するエンジニア」

11:05-11:35



狩野 光伸

岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域教授、
副理事 (未来人材創生担当)、附属学校機構長

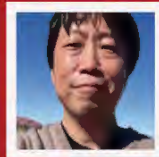
「科学技術教育：いま、何のために、誰のために、
何を、伝え、学び、支えるのか？」

11:35-12:00

パネルディスカッション

「科学技術人材育成のための高等科学教育」

パネリスト：安藤 晃
大島 まり
狩野 光伸



モデレーター：加納 圭 (滋賀大学教育学部教授)

2025
12.24
水

お問合せ：JSSE 学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会
「科学教育研究促進部門」(加納圭)
kkano@edu.shiga-u.ac.jp

＜今後の予定＞

【第 2 回】2026 年 2 月予定：未来の科学技術社会と教育 (仮)

【第 3 回】2026 年 5 月予定：一人一人の多様な幸せと課題への挑戦を実現する科学技術人材育成 (仮)

参加登録



bit.ly/4fWwtmy



第1回 日本科学教育学会 50 周年記念連続オンラインシンポジウム

クリスマスレクチャー

2025.

12.24 水

10:00~12:00

— 科学技術人材育成のための高等科学教育 —

10:00 ▶ 10:05 趣旨説明



10:05 ▶ 10:35 安藤 晃 東北大学高等大学院機構特任教授、副理事（教育企画担当）

「科学技術人材育成にむけた大学／大学院での教育活動」～東北大学の事例から～



講演要旨

長引く経済低迷に加え、大学運営交付金削減や急速に進んだ円安の影響もあり、最先端の科学技術開発だけでなく、それを担う人材育成についても世界的に日本の位置づけが低下している。我が国の将来を託せる科学技術人材育成に向けた大学の責務はおおきい。従来のディシプリンベースの研究科の枠を越えた横断型博士人材育成を目指し、東北大学で実施している学位プログラムやトランスファラブルスキル育成など教育活動を紹介する。

講師略歴

愛知県名古屋市出身。1987年に京都大学で博士（理学）取得後、文部省核融合科学研究所助手を経て、1995年より東北大学工学部助教授、工学研究科教授を経て2024年から高等大学院機構特任教授。専門はプラズマ理工学。特に、核融合プラズマの加熱を専門とし、応用研究として宇宙推進機へのプラズマ応用など。今年6月までプラズマ・核融合学会会長としてフュージョンエネルギー実現に向けた活動を実施。大学での教育担当として、2014年から高度教養教育・学生支援機構副機構長、2018年に工学研究科副研究科長（教育担当）、2021年から副理事（教育企画担当）として主に博士学生の支援（経済的支援及び研究支援）を担当している。また、2009年から現在まで、先端科学研究を志す高校生を対象とした東北大学「科学者の卵養成講座」を主宰中。

10:35 ▶ 11:05 大島 まり 東京大学大学院情報学環・東京大学生産技術研究所教授

「拡がるエンジニアリングのすその、多様化するエンジニア」



講演要旨

科学によって得られた知見を社会で活用できるように橋渡しする役割を担ってきたのが「エンジニアリング」です。近年のITや生成AIの急速な発展により、従来のエンジニアリングの概念や役割は大きく変化しています。それに伴い、エンジニアに求められる資質や能力も多様化しています。社会と科学技術の関係が変化する今、今後の科学教育のあり方について、皆さまとともに考えていきたいと思います。

講師略歴

東京大学大学院工学系研究科原子力工学専攻 博士課程を修了、博士（工学）。1992年より東京大学生産技術研究所の助手として勤務、講師、助教授を経て、2005年教授に昇任。2006年より東京大学情報学環 教授と生産技術研究所 教授を兼務、現在に至る。主な研究内容はバイオ・マイクロ流体工学。脳動脈瘤や動脈硬化症などの循環系疾患のための血流シミュレーション統合システムの開発に取り組んでいる。また、2011年より東京大学生産技術研究所 次世代育成オフィスの室長を務め、STEAM（Science, Technology, Engineering, Arts, and mathematics）教育に携わっている。2024年よりTokyo カレッジ 副カレッジ長として、東京大学のグローバル展開に取り組んでいる。2017年に一般財団法人 機械学会会長を務めた。また、豊田中央研究所の社外取締役をはじめ、産学連携の推進にも従事している。

11:05 ▶ 11:35 狩野光伸 岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域教授、副理事（未来人材創生担当）、附属学校機構長

「科学技術教育：いま、何のために、誰のために、何を、伝え、学び、支えるのか？」



講演要旨

科学技術とは？「説明がつかないこと」を追うのが科学、「方法がわからないこと」を追うのが技術、という表現を考えました。何に説明や方法を見つけないか。各専門関係以外にも、身の回りに様々あるでしょう。その活動を育て支えるには、各人が何とかしたい想いを見つけ共感し、新たな説明や方法に証拠も見つける旅路を支えることが要るでしょう。また追う対象の意義が分かると共感が増し支援が増すでしょう。これらは、アカデミアに加えビジネスにも必要な能力で、社会をより最適化していく道筋とも思われます。ともにその方法と説明を探り、磨いていきましょう。

講師略歴

岡山大学副理事（未来人材創生担当）、附属学校機構長、学術研究院ヘルスシステム統合科学学域教授；文部科学省科学技術学術審議会人材委員会主査・国際戦略委員会主査代理、科学技術学術政策局政策のための科学アドバイザー委員、科学技術振興機構自己評価委員会外部委員；国際学術会議（ISC）フェロー；ユネスコ国際基礎科学計画（IBSP）アドバイザー；OECD 変革的科学技術イノベーション政策アジェンダアドバイザー；本田財団理事ほか。東京大学医学部卒業・医師、同医学系研究科修了・博士（医学）、聖路加国際病院医師、東京大学医学部MD研究者育成プログラム室講師などを経て、現職。

11:35 ▶ 12:00 パネルディスカッション 「科学技術人材育成のための高等科学教育」

パネリスト：安藤 晃・大島 まり・狩野 光伸
モデレーター：加納 圭（滋賀大学教育学部教授）



参加登録はこちらから

開催形式：オンライン（Zoom）
対象：どなたでも
（非会員でもご参加いただけます）
定員：250名（参加費無料・先着順）
主催：一般社団法人日本科学教育学会



bit.ly/4fWwtmy